

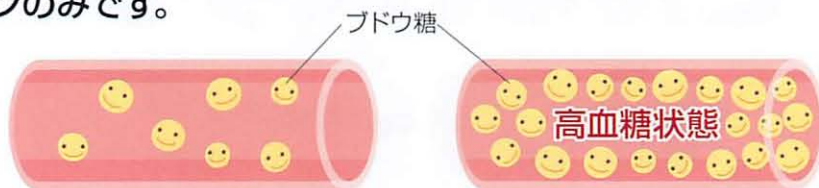
ビクトーザ®を使用される方へ

# どんなおくすり？ ビクトーザ®



# 糖尿病とは

- 糖尿病とは、血液の中のブドウ糖（血糖）の量が多いままになってしまう病気です。
- からだの中で血糖の量を減らすことができるのは、「インスリン」というホルモンのみです。



## 1型糖尿病

インスリンを作っているすい臓の機能が低下し、体内のインスリンが不足します。治療には、インスリンの注射が欠かせません。

## 2型糖尿病

インスリンがすい臓から出にくくなったり、血糖の量が多くなるのをおさえる効果が下がってしまいます。インスリンの注射が必要な場合と、そうでない場合があります。

2型糖尿病の原因は主に、インスリンの量が不足することとインスリンの効きが悪いことに分けられます。

血糖が高い状態を放置していると、ブドウ糖によって血管がもろくなり、いろいろな病気を引き起こす原因になります。

### 細い血管の障害

視力低下、失明  
(糖尿病網膜症)

じん臓の機能が低下して、ひどくなると腎不全に進行し人工透析が必要になる  
(糖尿病腎症)

手足のしびれ、痛み、壊疽(えそ)  
(糖尿病神経障害)

### 太い血管の障害

激しい頭痛、ものが二重に見える、うまく動けない  
(脳卒中)

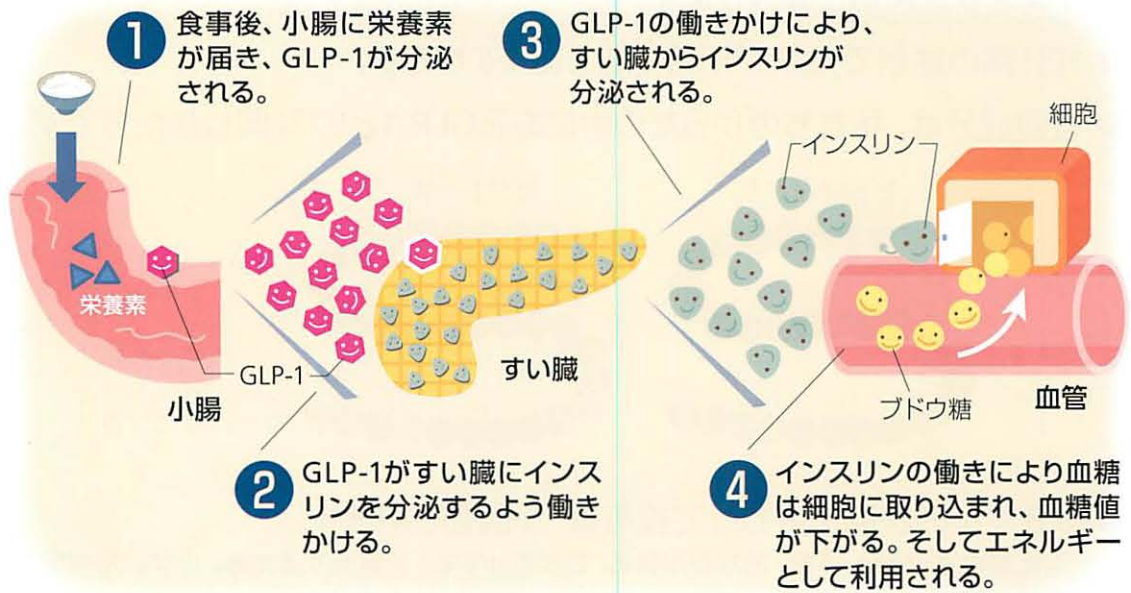
胸の強い痛み、それともなう動悸、息切れ  
(狭心症・心筋梗塞)

長時間歩けない  
(閉塞性動脈硬化症)

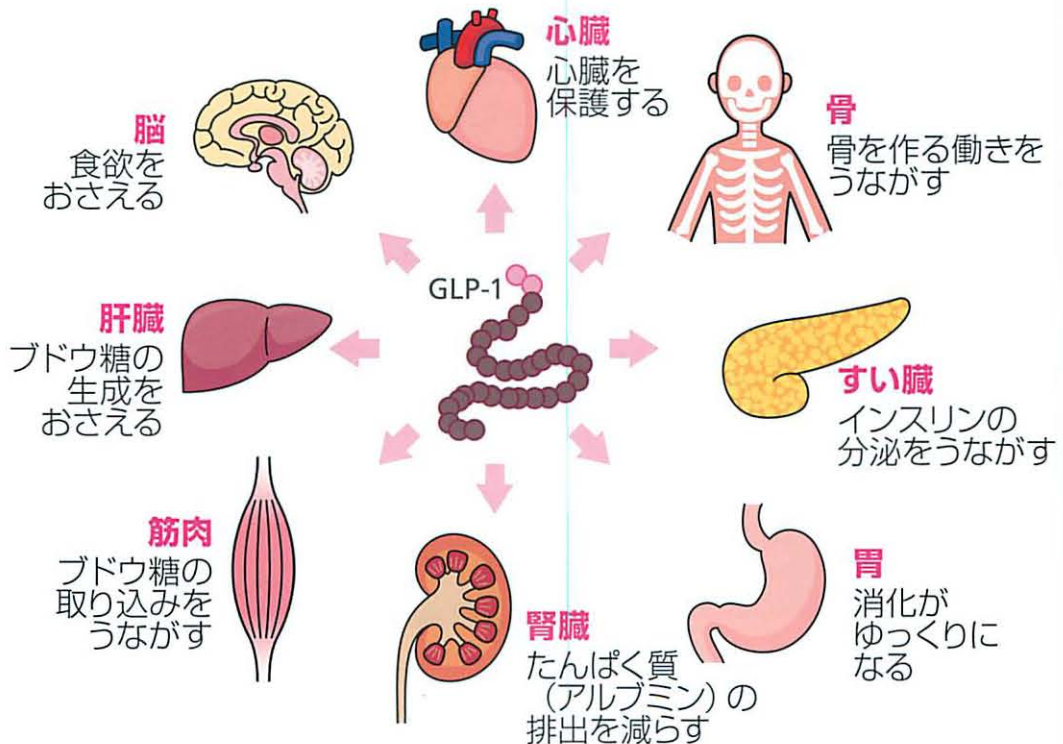




# インスリンは「GLP-1」というホルモンの働きによって分泌されます。

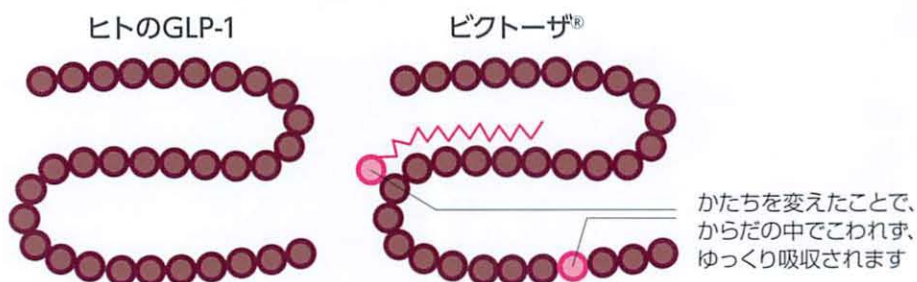


GLP-1は、他にも体内でさまざまな働きをしています。



# ビクトーザ®は、GLP-1の働きが期待できる 2型糖尿病のおくすりです。

- インスリン製剤と異なります。
- 1日1回の注射で効果が期待できるおくすりです。
- 有効成分は、私たちのからだの中にあるGLP-1と97%同じかたちです。



- 患者さんの状態に合わせて投与量\*が調節されます。
  - ・消化器障害（便秘、下痢、おなかが張る、むかむかする）を軽減するため、少ない投与量ではじめることができます。
  - ・効果が足りない場合、投与量を増やすことができます。
- 注射は、針が細く、痛みはほとんどありません。

採血の時に使われる注射針



インスリン・GLP-1治療で使う注射針（例）



ペンニードル®プラスの針はとて細く、痛みが少なくなるような工夫がされています



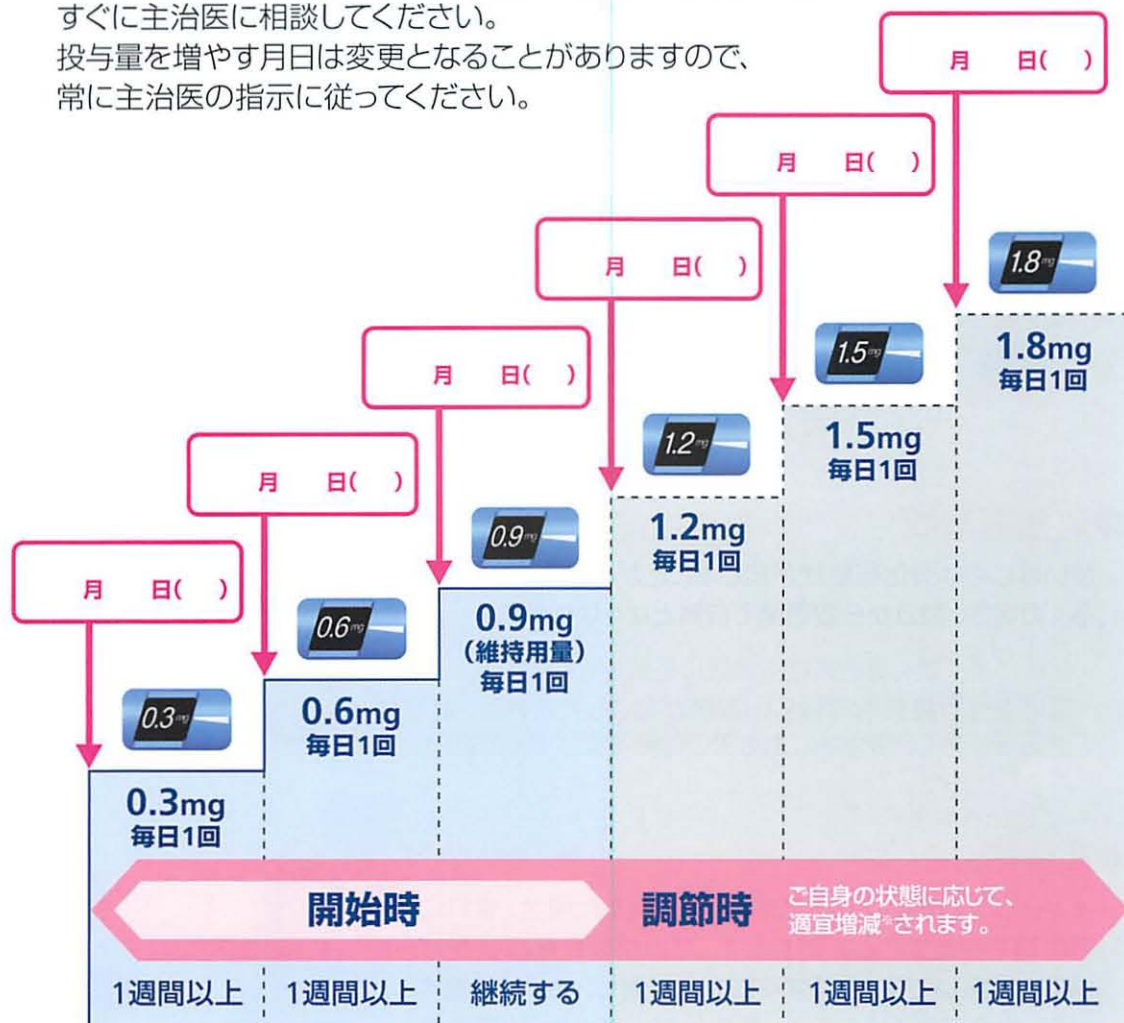
※投与量は主治医の指示に従ってください



# 投与量セルフチェックシート

## ● 投与量セルフチェックシート

主治医の指示に従って、投与量を増やす月日を記入してください。  
 低血糖症状を感じた場合や、消化器症状が長く続く場合には、  
 すぐに主治医に相談してください。  
 投与量を増やす月日は変更となることがありますので、  
 常に主治医の指示に従ってください。



通常、成人には、リラグルチド（遺伝子組換え）として、0.9mgを維持用量とし、1日1回朝又は夕に皮下注射する。ただし、1日1回0.3mgから開始し、1週間以上の間隔で0.3mgずつ増量する。

なお、患者の状態に応じて適宜増減し、1日0.9mgで効果不十分な場合には、1週間以上の間隔で0.3mgずつ最高1.8mgまで増量できる。

※投与量は主治医の指示に従ってください

# ビクトーザ®の副作用

## ●低血糖

ビクトーザ®は血糖値が高い時に作用するので、ほかの糖尿病薬と一緒に使用しない場合には低血糖が起きにくいお薬です。ただし、ほかの糖尿病薬（SU薬やインスリンなど）と一緒に使用する場合は低血糖がおりやすくなります。砂糖やブドウ糖の入った食べ物や飲み物を携帯することで対処しましょう。

### 主な低血糖症状



低血糖症状があらわれた場合は、通常は砂糖をとってください。α-グルコシダーゼ阻害薬を併用している場合は、ブドウ糖をとってください。

## ●消化器症状

使いはじめは消化器症状が起こることがありますが、多くの場合、数日から数週間で自然となくなります。

- ・症状が長く続く場合には主治医に相談してください。
- ・嘔吐を伴う持続的な激しい腹痛が起こったときは、直ちに使用をやめて、速やかに主治医の診断を受けてください。



## ●高血糖

インスリンからビクトーザ®に治療変更した場合、まれに高血糖をきたすことがあります。高血糖は自覚症状がないことが多いですが、「すぐにのどが渇く、トイレが近くなる、全身がだるい」といった症状が出てきたら、高血糖の可能性が高いので、すぐに主治医に相談してください。



## ●シックデイ

風邪などによる体調不良では  
投与量・スケジュールを変える必要はありません。





# ビクトーザ®Q&A

## Q：1本で何日分ありますか？

A：以下の表をご参照ください（同じ用量で継続した場合）。

1日の投与量(空打ち含む)	1本あたりの使用可能日数
0.3mg <sup>†</sup> (0.42mg)	42日*
0.6mg <sup>†</sup> (0.72mg)	25日
0.9mg <sup>†</sup> (1.02mg)	17日
1.2mg <sup>†</sup> (1.32mg)	13日
1.5mg <sup>†</sup> (1.62mg)	11日
1.8mg <sup>†</sup> (1.92mg)	9日

算出式：1本あたりの使用可能日数=18mg ÷ (1日の投与量+空打ち)

\*：投与量を0.3mgで使用した場合、42日で1本の計算となりますが、本剤は、使用開始後30日を超えて使用することができません。

†：本剤の維持用量は1日1回0.9mgです。

## Q：ビクトーザ®は注射ですが、インスリン製剤ですか？

A：インスリン製剤ではありません。ビクトーザ®はすい臓からインスリンが出るのを助け、血糖値を下げるおクスリです。

## Q：注射時刻は朝または夕どちらがいいですか？

A：注射時刻は朝または夕のいずれでもかまいませんが、可能な限り同じ時刻に行ってください。\*

## Q：注射はどこに打てばいいですか？

A：お腹や太もも、上腕に注射してください。同じ部位の中で、注射場所は毎回変更し、前回の注射場所から2~3cm離してください。\*

## Q：注射タイミングは食事の前または後どちらがいいですか？

A：食事の影響は受けませんので、前または後のいずれでもかまいません。\*

※主治医の指示に従ってください



どんなおくすり？  
ビクトーザ®

## ノボケア相談室

製品に関する疑問・質問などは、お気軽に下記のノボケア相談室にお問い合わせください。



月曜日から金曜日  
(祝日・会社休日を除く)

 0120-180363



夜間及び  
土日・祝日・会社休日

(注)お問い合わせ内容によっては、翌営業日に  
回答させていただく場合がございます。

 0120-359516